

新聞掲載



「島口かるた」に児童奮闘

「東城チンダラ節」サンシン演奏も 東城小中

シマグチなど郷土の文化を子どもたちに受け継ごうと、奄美市住用町の東城小中学校（永井孝則校長、児童・生徒28人）は16日、「奄美方言島口」とわざわざかるた大会を開きました。5・6年生8人による「東城チンダラ節」のサンシン演奏も行われました。



読み終わる前に素早くかるたに手を伸ばす児童

かるた大会は児童10人が3、4人の五つのグループに分かれ開催されました。大塚優介先生が「他人笑ゆん人どう自分笑い」（他人を笑う人は自分が笑われる）などと読み上げると、上級生たちは下の句を暗記しているように、読み終わる前にさっと手を伸ばしていました。熱戦は25分間に及び、グループごとに一番多く取った人がトロフィーを受け取りました。トロフィーには代々の優勝者の名前が飾られています。15枚を取って高学年の部Aを制した6年生、政蓮さんはシマグチは話せませんが、70代のおぼあちゃんと話す時、言っていることは

わかるようになりまし
 楽しかったですと笑
 たと話してくれまし
 顔を覚えていました。
 方言を取り入れアレン
 につき合っていました。
 同じ組で惜しくも
 18日の「方言の日」を
 PO法人奄美島おこし
 は「同級生の蓮ちゃん
 記念して、2013年
 から同様の大会を開催
 し、今年で11回目にな
 シマグチに触れられて
 ます。島口かるたは、
 27首を選びました。
 わかるといいですと
 永井校長は、「生活
 に密着した」とわざ
 について理解してもら
 い、故郷を愛する心を
 養ってもらいたい
 と毎年力を入れて
 臨んでいると語って
 くれました。

奄美新聞 R5.2.23